

# 今を未来に



学ぶことが楽しい学校 だいすき・つながる・じっくり・やってみる・すこやか・まなぶ



## 卒業証書授与式 3月19日(火)

令和5年度卒業証書授与式を行いました。

一人ひとりが、6年間で振り返り、その子らしく、なかまや家族への感謝を表し、卒業証書を立派に受け取りました。そして、力強い「旅立ちの言葉」を響かせ、思いのこもった歌が式場を包みました。

在校生を代表して出席した5年生も、呼びかけ、合唱、卒業生の入退場の演奏と、立派にやり遂げました。



校旗のバトンが5年生へ手渡されました。



今年はお世話になった地域の方にもご出席いただき、卒業生の門出を祝っていただきました。とても素晴らしい卒業式だったとお話いただきました。ありがとうございました。

校長より卒業生へ、今、大切にしたいことを贈る言葉として話しました。

\*\*\*\*\*

これから中学校へと巣立ちゆくみなさんへ、「中村哲」という医師の生き方を紹介し、皆さんへの贈る言葉とします。

中村さんは、35年という長い間、日本から遠く離れたパキスタンやアフガニスタンという国で、たくさんの人の病気を治療し、命を救ってきた人です。

中村さんは、登山隊に付き添う医師としてパキスタンを訪れた際に、医師のいない地域で病気に苦しむ人々と出会います。中村さんは、精神科の医師でしたが、外科や内科の技術を勉強して、ハンセン病の治療に取り組みました。その中で、足の症状の原因は、履き物にある、治療より予防が必要だと考えました。そして、試行錯誤の末、丈夫なサンダルをデザインし、手先の器用な患者さんが作れるようにして、病気予防に取り組みました。

1991年、アフガニスタンで、医師がいない地域にいくつも診療所を開きます。現地の方が診療所で働けるよう訓練し、無料で診察をしました。そのような中、2000年、この地域が大かんばつとなり、水不足のために、たくさんの子どもたちが命を落とします。そこで、中村さんは、「とにかく水が必要だ」と考え、井戸を掘ったり、用水路を作ったりするための勉強をし、1600もの井戸を掘り、病気の予防や治療に役立てました。また、7年をかけて、いくつもの苦難を乗り越え、全長25kmの用水路を作り、広い大地を潤し、65万人もの人々の命を救いました。

この中村哲さんの生き方から、2つのことを学びたいと考えました。

1つ目は、問題の本質を見極め、仲間とともに解決する力です

中村さんは、医師として患者の治療に取り組みますが、病気に苦しむ人々の暮らしの中にある事実から病気を生み出す原因、問題の本質を捉え、医療にとどまらず、サンダルづくり、井戸の採掘、用水路づくりと、発想豊かに解決方法を考え、たくさんの人々と粘り強く取り組んでいきました。

今、社会は急激に変わり、将来の予測が困難な時代と言われています。何が課題か、何が正解なのか不確かな中で、中村さんのように、問題の本質を見極め、仲間と共に、知恵を出し合い、解決をめざす力が必要となるのです。

2つ目は、人を大切にできる感性です。

中村さんは、サンダルを作る時も、用水路を作る時も、その国の人の考え方や文化、思いを大切にしました。その国の人たちが、いつまでも自分たちで活動を続けていけるように、材料や技術を探り、実現していきました。支援をする中村さんたちが、その国の人のことを真剣に考え行動する。そんな人と人との間に、優しさの花は咲くのです。

中村さんは、なぜここまで頑張るのかと問われ、こう答えます。

道端で倒れている人がいたら手を差し伸べる。これは普通のことです。

身近にあってできることは、意外とたくさんある。たとえば友達がいじめられているのをかばってやる。家族が病気になった時、かわりにご飯を作る。

そういう、小さな一つ一つが、何でもないようなことが人間の真心、それをじっと守ることが大事なんだと。

皆さんは、学年の仲間と思いを語り合い、その仲間の思いに自分は何ができるのかと考えてきました。自分自身を見つめ、人を大切にできる人になりたい、誰もが幸せに生きられるようにと、この保々小学校で、仲間や先生方と、地域の方に学びながら取り組んでいきました。その経験が、未来へと繋がっていくのです。

4月から、中学校での新しい生活が始まります。これからも、いろんな出来事に出合

い、壁にぶつかることもあるでしょう。何が課題か問いを立て、さまざまな立場の仲間と繋がり、よりよい未来を切り拓いていくことを願います。今を未来につなげて。

\*\*\*\*\*

運動場での歓送では、6年生が作った「宝物」の歌で、5年生、先生方、そして保護者の方の拍手の中、晴れやかに歩いていきました。



最後に、5年生から6年生へエールが送られ、6年生からも喜びの声が返されました。



卒業生のみなさん、保護者の皆様、  
ご卒業おめでとうございます。